

平成30年度第2回碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

日 時	平成31年1月31日（火） 午後1時28分～午後3時15分		
場 所	碧南市役所 7階 議員大会議室		
出席者 ■出席 □欠席	推進会議 委員	■禰宜田市長 ■石川央委員 ■齋藤委員 ■三島委員 ■石川武範委員 □浅見委員 ■下平委員 ■岩崎委員 ■硯見委員 ■河原委員 ■森委員 □田村委員 ■松永委員（代理：天野氏） ■中根委員 □永坂委員 □山田委員 ■高須委員	
	事務局	金沢総務部長、生田経営企画課長、中川経営企画課長補佐兼政策推進係長、小林主査、平松主事	
傍聴者	1名		
次 第	1 あいさつ 2 碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の更なる推進にむけて 3 碧南市ふるさと起業家支援事業の状況について 4 意見交換		
1 開会あいさつ	○市長よりあいさつ 碧南市の人口は、現在、年に500人程度増えており、大半が外国人である。 日本人はお亡くなりになる方が700人、出生者が600人ということで100人自然に減少していく形ではあるが、移住される日本人も増えており、日本人は6万8,000人で横ばいが続いている。 外国人の方は30数カ国の国籍を持つ皆様があり、今後も増加が予想される。 出生率は5年前は1.62だったが、今回の発表で上向くかもしれない。 みなさんのご意見を把握しながら住みやすく、活力の減退しないまちを作って行きたい。		
2～4	○本日の議事録及び資料は市のホームページで公開することを説明 ○新規委員紹介、代理紹介、欠席者の報告 ○2と3については議長（市長）により進行、事務局から資料説明 ○4意見交換により聴取した内容は以下のとおり		
委員からの主な発言			
石川央委員	○企業も研修生の立場で外国人をかなり多く雇用をされていると伺っている。 景気がこの先順調に維持されてほしい。行政と関係機関と連携し、有事の際には我々も対応していきたいので協力いただきたい。 ○工業用地の整備の問題についても、市内の企業の中で今の場所だとやりづらい企業があれば、市の主導のもとに、新たな整備用地で受け入れができるような形をスムーズにとっていただきたい。		

事務局	○都市マスを今年 10 月ぐらいにオープンするが、商工会議所がアンケートを取 るということを伺っているため、その情報を確認しながら、市内の中小企業 の方の御要望に応えられるように検討していきたい。
石川央委員	○当所の会員企業に意向アンケートを取るため、結果を報告する。
斎藤委員	○2022 年の民法改正で成人が 18 歳になるため、若いうちから金融に関しての知 識や判断力が必要になってくる。金融リテラシーを身に着けるための勉強が できるような仕組みができるといい。 ○18 歳の方が成人式をあげることになると、大学進学やセンター試験にも影響 が出るため、碧南市はどうするか明確にされたほうがよい。 ○空き家に選定される前の準空き家が多いと市内の不動産屋から聞いたが、空 き家対策の委員には状況を良く知る不動産屋が入っていない。また、空き家 を更地にしても税金がかかるため、軽減措置などすれば対策が進むかもしれ ない。
事務局	○金融だけに関わらず、日常の買い物や消費契約などの契約に関して消費者庁 から 18 歳になる前までに何らかの教育が必要じゃないかという通知が消費生 活の担当と教育委員会へきている。そういった内容をできるだけ教育の中 に入れていく話が出だしたところであるので情報に注視したい。 ○成人式を変える場合、周知期間も相当必要であるため、今までどおりだ思う が、成人としての自覚を持ってもらうきっかけにもなっている。総合的に検 討し、みなさんが納得できるようにしていきたい。 ○委員会では現在は空き家に認定すべきかといった議論が中心で、空き家にな る前の対応というところには至っていないのが現状である。これが進んでいけ ば準空き家対策にも発展していくかもしれない。所管へは伝えさせていただく。
三島委員	○後継者がやや育ってきている反面、農家は高齢化しており、数も減少してい る。田や畑の地権者が高齢化しているため、人に預けて農業してもらう人が 多く、工業用地の買収が出るぜひ使ってくださいなってしまうため、工業商 業農業漁業の調和をとって上手にしてもらいたい。 ○農協としても高齢化して困っている農家さんに対して、何をするかが課題で ある。
岩崎委員	○さまざま障害を持っている方々が農業をやることによって、いきいきと暮ら せる農福連携に取り組んでいる地域が増えてきている。 もちろんそれが担い手不足を解消するということにはならないかもしれない が、農業の新しい価値に思えるし、農福連携で何か新しい産品ができるとよ りよいと思う。
石川武委員	○ここ数年、高齢化が著しく、漁業者も人数が少なくなってきた。碧南市から 何らかの企画や支援がほしい。漁業は他の産業よりもさらに計画が立てられ ないから余計に厳しい面がある。
事務局	○できるだけしっかり検討したい。

下平委員	○北部工業用地に関するマスタープラン改定の狙いは、市外へ企業が流出することを防ぐものか、それとも市内の企業の工場などを拡張できるようにするものかお聞かせ願いたい。
事務局	○新たな工業用地の開発の要望は以前からあり、それではマスタープランを改定しないといけないということで現在作業をしている。委員の言うどちらかとはっきり決めていないが、製造業中心という考え方のもと、開発自体は民間が主導していく。
市長	○場所は 23 号線に近いところで 30 数ヘクタール程度を考えている。昔からこの場所はどうかという話があった。しっかりまとめて良くしていきたい。
下平委員	○刈谷の依佐美では区画をある程度小さくして市内企業の移転に備えたり、榎前だと大きい区画で大企業向けでとしているが、その辺りも民間が考えていくのか。
事務局	○新年度予算でその区域の調査費をつけ、無秩序にならないよう均等な形で分譲できないか検討していく予定。
岩崎委員	○今、ネパール、ベトナムに関してはほとんど日本語学校の留学生ビザが出ないという状況で、中国韓国ある程度出るけれど、日本語学校の入学生を国の方針として入館は絞っている。今後、労働力としての受け入れが大きくなる可能性もあるため、日本語の話せない人たちに対してどう行政サービスを提供するのか課題になると思う。4 月以降はかなり注意する必要があると思う。そのため、これから多様な形でお金を使う必要が出てくる。 ○電子決裁機能機器の導入に補助を拡大することについては個人の資産形成のようなところに投資を補助することになるので少し疑問を感じる。 ○高齢者安全運転支援事業も狙いはわかるが、高齢者の方も自覚してもらうために自分でその安全を買うという姿勢が望ましいのではないかな。 ○ふるさと起業家支援で、宇宙開発プロジェクトはもう少し寄附が集まって欲しかったかも伺いたい。
事務局	○碧南市に来る外国人の方への対応も含めて電子決裁機能の導入が進めるため補助制度であるが、個人の資産に満額補助というわけではなく、初期費用の一部補助であり、また、国が電子決裁の拡大を進めている方向性と合致していると考えている。 ○高齢者安全運転支援事業は、碧南市はやはり車がないと不便に感じる場所もあり、高齢者の交通安全もきっちりやってこうということで 2 カ年限定で皆さんに意識づけのための制度となっている。 ○起業家支援プロジェクトについては、募集する寄附金額のハードルは高かったかもしれないが、JAXA が碧南市にきて見学をしていかれたりということもあった。寄附を集めるというのも一つの目標ではあるが、市が応援することでいろんな方に知っていただき、来ていただき、交流人口の増加につながっている。また、外国人の方で研究者の方やインターンシップの方もたくさんきていただいているので、地道ではあるが、寄附金募集以外に効果が着実にでてきている。

高須委員	○高齢者安全運転支援の件で、やはりある程度の高齢者になると、認知症だとかも関係して免許返納が考えられる。高齢者の危険運転もあるため、これがあるから返納しようなればよいがいかがか。
事務局	○免許返納のメリットについては、まずは所管にお伝えさせていただきたい。
市長	○高齢者交通事故を減らすには、踏み間違えなどをなくす流れを作ってみてはというような検討の中で実施としたこともあるため、今後もいろいろ検討したいと思っている。
中根委員	○学校関係での話だが、エアコンの設置や全校耐震の建てかえをしてもらい本当にありがたいと思っている。 ○トイレが昔から課題で、数が少ないうえ、ほぼ和式である。洋式のトイレしか利用できない生徒たちもいるため、対応をお願いしたい。
事務局	○トイレの数は確か基準で決まっていた気がするが教育委員会へ確認させていただきたい。和式が多いということは、教育委員会も承知しているが、校舎の何から始めたかという耐震。来年度ぐらいに通って終わったのち、耐震以外の問題に取り組んでいけるため、御理解いただきたい。
市長	○和式トイレが非常に体にいいという説をきいたことがあるが、国とか県の基準に合わせて今はやっているため、どうするかはいろいろな材料で判断したい。
石川武委員	○昔の学校も和式だが、放課に行列になることは記憶ない。人数も昔に比べて少なくなったし、クラス数も少なくなったのでは。
中根委員	○今は昔と比べて、時間に追われているのかもしれない。
松永委員 代理：天野氏	○碧南は住み良いまちと多方面から聞くが、移動に不便とも聞く。例えばライドシェアやデマンドバスといった技術を活用してもらえるとよいと考える。 ○外からみるとやはり認知されていないのが現状。もっと魅力をうまく発信していく必要があると感じる。
事務局	○デマンドバスでは、民間企業さんとの連携も含め、ある自治体の実証実験の成果を受けたのちに、踏み出すかどうか検討しており、利便性の向上を図っていきたいと考えている。 ○ふるさと納税を一つのシティプロモーションと位置づけて実施しているほか、若手の職員が自分たちでSNSを活用したり冊子をつくったりということで碧南の魅力を発信していくというような取り組みを始めている。
森委員	○非常に外国人が増えてきているが、世界情勢により企業が影響を受けるときには外国人へしわ寄せがやはりいくと思われるので、今の段階から、まずは、雑談みたいな形でいいので意見を出し合う場を設けていただくと非常にいいと考える。
事務局	○景気が悪くなった際の各市への対応につきましては、ハローワークあるいは商工会議所の意見を聞きながら対応を検討していきたい。

河原委員	○金融機関としては、いろんな電子決済機能を新しく開発をして、幅広に提供していく必要があると感じている。 ○金融リテラシーに関しては中学生の職場体験でマネーゲームをいうものを行っている。将来生きていく中で必要なお金をゲーム感覚で学んでもらうというもの。高校生には実際の投資に対しての考え方を学んでもらう活動も行っている。
硯見委員	○外国人の方が教育ローンの借り入れをすると収入の安定がしていない場合が比較的多いので負担が大きくなりやすい。市や民間の金融機関も含めて教育ローンの助成金を、検討いただけるとありがたい。 ○高校生ビジネスプラングランプリを実施しており、起業予備軍を育成する取り組みを行っている。極力先生がたの負担をかけないようにするため、高校に協力いただけるように働きかけをお願いしたい。

以上